

| | | 学校教育計画 | | | | |
|---|--------------------------------------|--|--|---|--|--------------------------------------|
| 教育方針 | | 校訓「愛・敬・誠」を実践し、知・徳・体のバランスのとれた全人教育を行う。 心からの思いやりと真心をもって「誠心誠意」人にも事にも尽くすことのできる人間を育てる。 | | | | |
| 前年度の成果と課題 | | 本年度の重点目標 | | 本年度の具体的目標 | | 全体評価 |
| ・個別指導の徹底を図り、進学・就職の実績をあげるよう、より高い目標を目指して実践する必要がある。 ・生徒会活動や清掃奉仕等のボランティア活動に積極的に取り組めた。 ・部活動では全国大会で優勝するなど大いに成果をあげた。 | | 1. 本校生としての誇りを持ち、自分の行動に責任がとれる生徒を育成する。 2. 学ぶ目標を持ち、その実現に努める生徒を育成する。 3. 社会に貢献できる生徒を育成する。 | | ①気持ちの良い挨拶ができる生徒を育てる。 ②善悪の判断が正しくできる生徒を育てる。 ③規則がきちんと守れる生徒を育てる。 ④今もっている力を伸ばす。(鍛錬) ⑤新しいものに目を向けさせる。(挑戦) ⑥保護者との連携を密接にする。 | | B |
| 評価項目 | 本年度の主な活動目標 | | 本年度の主な具体的方策 | | 評価 | 次年度の改善策 |
| 教科 指導 | 国語 | 国語を適切に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす | 朝の10分読書が定着したように、校内漢字テストの結果を漢字検定へ結びつける。 | | B | 更なる朝の読書の徹底 |
| | 地歴公民 | 社会への対応能力・知識を身につけ、自ら行動できる能力を養う。 | 身近な出来事を取り入れながら、成人としての自覚を持ち得るような授業を心がける。 | | B | IT機器も活用し、成人、公民としての自覚を持ち得るような授業を心がける。 |
| | 数学 | 数学的思考力を身につけ、自ら問題解決する能力を培う | 生徒がもっと発言できる環境を作り、自発的な「解ける」と「できる、楽しい」につなげる。 | | B | タブレットの活用で興味・関心をもってもらい、意欲につなげる。 |
| | 理科 | 自然現象への関心を高め、論理的思考力と基礎計算力をつける。 | ICTの積極的活用で、演習の時間を多く確保する。 | | B | 種々の手法をもちいることにより演習の時間を確保し、理解を深める。 |
| | 保健体育 | 感染症に対する予防意識を高め、健康についての意識向上を図る。 | 本校は特に寮生の割合が高いので、生徒たちの感染症の予防・防止に努める。 | | B | 運動部寮生の手洗い、うがい及びマスク着用の徹底 |
| | 芸術 | 芸術についての表現力を養い、感性豊かな人間性の育成を目指す。 | 美術の鑑賞体験を増やし、個人・グループによる「表現」に重点を置いた授業を実施する。 | | C | 表現力を高めることだけではなく、共働的に取り組める活動を心がける。 |
| | 英語 | 教員のスキルアップをはかり、授業の質の向上および生徒の満足度の向上を目指す。 | 学期に2回研修会を実施し、英語力および知識・技能を向上させる。 | | A+ | ICTを活用し、双方向の学習を充実させる。 |
| | 家庭 | 家庭や地域の生活に関わる実践的な知識と技術を習得させる | 実習や演習を多く取り入れる。 | | C | 余裕のある授業計画と内容の改善をしていく。 |
| | 情報 | メディアリテラシー(情報活用能力)を身に付けさせ、情報社会に主体的に参画する力を養う。 | 授業においてメディアリテラシーを身に付けさせ、実習を通して実践力を養う。 | | B | メディアリテラシーの重要性を更に時間をかけて、具体的に指導する。 |
| | 商業 | 商業科の専門科目の修得に全力を尽くす。 | 専門科目に関する提出物等を必ず提出させる。 | | B | 商業科目の専門用語をより分かりやすく教える。 |
| 看護 | 自ら学び考える姿勢を身につける | 共に考え、共有する機会を増やす。 | | B | 目標に向けて考えを発表する機会を増やす。 | |
| 福祉 | 社会福祉の意義を理解し、実践しようとする心と行動力を育てる。 | 興味関心を高めさせ、実践できる(しようとする)心を育てる。 | | B | 福祉の意義を理解し、実践しようとする心と行動力を育てる。 | |
| 教務 | 授業改善と校務の効率化を図る。 | 校内のICT環境を整備し、授業改善と校務の効率化を図る。 | | B | 校内のICT環境の整備と、教員のICTリテラシーを高めるための研修を実施する。 | |
| 総務 | 誠之会活動の活性化と充実を図る。 | 誠之会行事への関心と参加者を増やす。 | | B | 保護者への呼びかけを分かりやすく丁寧に行う。 | |
| 総務(管理) | 学校生活の安全を図り、かつ美化に努める。 | 避難訓練、全校一斉清掃の重要性を認識させ、真剣かつ緊張感を持って取り組む。 | | B | 避難訓練、全校一斉清掃の意義を理解させ、真剣かつ緊張感を持って取り組む。 | |
| 生徒指導 | 本校生徒として誇りと自覚を持ち、自分の行動に責任が取れる生徒を育成する。 | 生徒個人とのコミュニケーションを大事にし、きめ細かな生徒指導を行う。 | | B | 家庭との連携を更に強化する。 | |
| 進路指導(進学) | 卒業後の自分の姿を明確にし、それに向けて自ら学ぶ姿勢を育てる。 | 状況に応じて、生徒が学びに向かう機会を提供する。 | | B | 生徒の成長を促す催しを一層多く取り入れる。 | |
| 進路指導(就職) | 生徒が「望んだ企業に就職する」ことができるように指導する。 | キャリア教育を充実させる。 | | B | 年度当初から担任と細かい連携を密にする。 | |
| 人権・同和教育 | 現職教育や現地研修で互いの人権意識を高める。 | 生徒と共に「人を思う心」を大切にし、互いの人権感覚を高める。 | | B | 職員、生徒間での人権意識を更に高める。 | |
| 保健体育 | 健康に留意し、学校生活を送る。 | 手洗い、うがい及び睡眠時間の確保を奨行し、栄養バランスの良い食事を摂る。 | | B | 厚生部と協力して、寮生の間でインフルエンザが集団発生しないように注意指導を徹底する。 | |
| 教育相談 | より充実した高校生活になるためのサポートを行う。 | しっかりと傾聴することで、生徒の思いに寄り添う教員を目指す。 | | C | 充実した高校生活になるためのサポートを行う。 | |
| 特活 | 自主的に考え行動できる生徒を育てる。 | 生徒自身が、目標と行動計画を立てて実行できるように指導する。 | | C | 生徒が目標を立てやすくなるように工夫する。 | |
| 厚生 | 集団生活での規律を身に付ける。 | 食堂内における朝・夕食時のスマートフォン使用禁止を徹底させる。 | | B | 食堂内のマナーは改善されてきているが、残飯があるので指導強化が必要。 | |
| 1年団 | 周りから愛される学年団を作る。 | 高校生活の目標を持たせ、積極的な学校生活を送らせる。 | | B | ICT教育の積極的な導入により、学びの環境を充実させる。 | |
| 2年団 | 2年生としての自覚を持たせ、自分の行動に責任がとれる生徒の育成 | 服装頭髪を整え、時間を守り、聴く姿勢を高める。 | | B | 今年度の結果を踏まえ、更に社会性を身に付けさせる。 | |
| 3年団 | 進学・就職100%を目指し、全員で卒業する。 | 学年団の目標を共有して、更に連携のとれた生徒指導を実現する。 | | B | 欠席が多いクラスでは、欠席カードを利用し改善する。 | |
| 商業科 | 各種検定取得に全力を尽くす | 尽誠塾に積極的に出席させる。 | | B | 生徒自らが検定取得に取り組めるようにする。 | |
| 衛生看護科 | 心身の自己管理ができ、自ら気づき、学び、考える姿勢を育てる。 | 自ら気づき、主体的に考えて行動できる姿勢を育てる。 | | B | 自ら問題に気づき共に解決する姿勢を育てる。 | |
| 特進・進学コース | 教員間の意識を統一し、組織だった進路指導を行う。 | 担任まかせの進路指導にならないようスキル・情報共有し、組織だった進路指導となるように改善する。 | | C | 教員間のコミュニケーションを密にして、生徒が希望する進路の実現につなげる。 | |
| 体育コース | 全国大会上位入賞 | 新しい自分をつくる。 | | B | チームとして、コミュニケーション能力の向上を目指す。 | |
| 教養コース | 将来の目標を定める為の教育活動の工夫をする。 | 基礎学力を身に付けさせ、社会が求める人材を育成する。 | | B | 将来の目標を明確にさせ、自ら学ぶ生徒を育てる。 | |